



構想策定における諸課題

地域の視点・地域の人々の目線から 構想策定に向けた課題を考えました

課題1

「中心部だけが栄えて、周辺部はさびれるのではないか」
「地域の文化や伝統が活かされないではないか」

—合併に向けた地域の視点からの課題—

- 地域の合併には、参加する自治体の人口や財政規模などの他に、地理的な位置関係によって地域の統合や連携のやり方が異なってきます。
- 右図のように長岡市は人口規模の大きさに加えて位置的にも中心で、多くの都市機能が集中しているため長岡市を核として連携していくことが考えられます。また、地域の特性が異なることから、画一的な開発や整備は地域の個性を失いかねません。



解決の視点

各地域が活かされた構想とするためには、

1. 各地域の持っている個性や自主性等を新市全体の中での役割として位置付け、活かしていくことの出来る構想とする必要があります。
2. 人々の思いや意思が活かされた構想とする必要があります。

方向性

市民の心や意思を汲み上げる手法や、各地域の地域らしさを活かす取り組みが必要です。

課題2

いつの時代にも色あせない構想とは何か？

—これまでの構想や計画に見る課題—

将来構想は、長い期間を見据えた“まちづくりの方針”であることから、将来それぞれの時代の人々が考え方を理解して、まちづくりを実践していく必要があります。
その一方で、これまでの構想や計画の多くは、現状の課題に対して「今何をしなければならないか」という“現在”に力点が置かれ、「どう変わってきたか、あるいはどう変わっていくか」という“歴史の中の現在”には、あまり注意が払われてはこなかったのではないかと考えられます。

解決の視点

いつの時代にも色あせない構想とは、

1. 人々が過去からしか学ぶことができないとすれば、未来の人々が構想を見たときに、過去の人々がどのように考えたのかがわかる構想づくりが必要です。
2. これからの構想は、単に結論だけでなく、何を考えたか、どう考えたかを知ることで出来る仕組みになっている必要があります。

方向性

将来にわたって、考えた過程が確認できる方法や仕組みづくりが必要です。

課題3

不確実性の時代に対応できる構想はどう考えていくか？

—現代が直面する社会状況からの課題—

現代は“これまで社会の常識とされていた様々な価値観”が大きく変質しているために、経済だけでなく、生活全般に不透明感が強く漂っていることは、多くの方が実感としてお持ちなのではないでしょうか。例えば、戦後社会の大きな価値観であった「誰もが食うに困らない」「安全神話」といったのも、現代では希薄になりつつあります。

解決の視点

このような不確実性の時代の変化に対応できる構想とは、

1. “現状対応”の考え方ではなく、いつの時代にも変わらない“地域の人々の共有的な価値”が明示された構想である必要があります。
2. 新たな地域の一体化を狙って市民と行政が協働して“地域の共有価値を高めていく活動”が明示された構想である必要があります。

方向性

単なる施設整備の構想ではなく、市民が目標と夢を持ち続けることのできる共有価値を明確にする構想の骨格と検討方法が必要です。

事例 ～変質する価値観～

これまでの科学技術の進展は、理屈なしに人間が幸せになれるものであった。ところが、現代においてはITをはじめ様々な技術が進展しても、人間自身が幸せ感を実感できないままの社会になってきている。それは、科学技術が人間の思想を超越して速かに進んでしまったため、科学技術の発展が人間の幸せを保障しなくなってきたからであると考えられる。例えて言うなら、「速い」ということは、速ければ速いほど人間にとっての「幸せ」かどうか判らなくなってきたということである。

(小滝晴子 著 考え方の未来より要約 緑地社 2003年)

構想策定の課題と策定方針の関係

課題

1. 住民の思いや意思を反映した
将来構想づくり
2. いつの時代にも色あせない、
考えた過程を次の時代に
活かせる将来構想づくり
3. 市民にとっての目標と夢を
持ち続けることのできる
将来構想づくり

課題解決のヒント

(P15～16)

将来構想策定の
方針・考え方
(P13)